



2020. 2. 1

## 2月 ちとせだより

幼保連携型認定こども園  
神戸 YMCA ちとせ幼稚園

毎朝おはようを言いながら「手袋が欲しい」と感じる朝が未だありませんし、園庭の梅がもう見頃です。昨年2月の園だよりには「梅が一つ、二つと咲き始めました」と書いていました。暖冬です。今年、2月が29日までである「閏年（じゅんねん。うるうどし）」です。

「うるう年って、何だ？」ってことでネット検索してみました。

地球が太陽の周りを「きっちり1周」廻りきるには「365.2422日」かかるそうです。地球は、暦の1年では太陽の周りを1周廻り切れず、0.2422日（5時間48分くらい）遅れていく、ということですね。この遅れが積み重なっていくと、実際の季節の移り変わりよりも暦が先に進んでしまいます。特に田畑を耕したり種をまいたりという農耕作業は暦を目安に行われますから、暦と気候が合っていないと大きな支障が出ます。

「0.2422日」は約4分の1日なので、「概ね4年に1日ずつ」暦を延ばして、ズレを調節しているということです。なぜ「概ね」かということ、うるう年のルールの詳細が「4年毎にうるう年を設けるが、100年目と200年目と300年目はうるう年にはしない、でも400年目はうるう年にする」だから。「オリンピックの年はうるう年」は、当てはまらない年があるってことですね。

でも「うるう」って何？ってことで、これも検索。

中国では昔、「うるうの日」は暦からはみ出した「不正規な日」とされ、王は執務をせず城の門から出てこなかったそうです。王が門から出てこない→王は門の中にいる、これが「閏」という漢字の成り立ち。日本ではこの「閏」の読みに、同じ字にサンズイ偏の付いた「潤」の訓読み「うるう、うるむ」が当てられた。だから「うるうどし」。そういうことのようにです。

どうやら、うるう年は歴史的には歓迎されなかったようですが、毎年「3学期はアツという間」と、時間を無駄にしないよう戒めるのが常ですから、1日多いのは嬉しく感じます。

卒園が目目の前の年長のこどもたちに、年中組、年少組、さくらんぼ、其々のこどもたちにも、ひとり一人に1年間の成長を感じるこの頃です。大切な1日1日を胸に刻みながら過ごそうと思います。

### 年主題 『ことばに満たされて ～ひびきあう～』

<年主題聖句> 「その人は流れのほとりに植えられた木」（詩編1編3節）

### 2月主題 『なかまと

心あわせて』

<聖句> 「あなたがたはそれぞれ、賜物を授かっているのです」  
（ペトロの手紙Ⅰ 4章10節）